

(1) 概要

- 製袋事業について、前年度の「箕面市指定ごみ袋」仕様変更に伴って変更となった作業も、作業環境等の見直しで徐々に利用者の作業効率が上がってきた。また、「箕面市指定ごみ袋」の安定供給に向けて箕面市との継続協議、入札実施、製造シェア事業所との調整等を図って対応した。
- コロナ禍でチーム別懇談会は中止としたが、年4回の家族向け「就労B通信」発行やブログ掲載（年5回）等を行い、家族向けの情報発信を行った。
- 10月、箕面市障害者事業団の職員採用募集に利用者3名が応募し、事前に面接・通勤等の練習を実施して試験に臨み、利用者1名が採用となった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	コロナ禍での支援の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○活動場所を整理し、活動の性質や部屋の大きさ、参加利用者の障害特性等に配慮して活動を提供した。 ○感染防止のため、可能な限り利用者がマスク着用できるよう支援に努めた。 ○Wi-Fi環境を整え、Youtube等を使った活動の充実を図った。
2	外部評価（指定管理アンケート・第三者評価）をふまえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の業務の流れに沿って、業務マニュアルの整備を行った。 ○チーム別懇談会は前年度に引き続き中止としたが、年4回の法人広報誌の配布、年4回の家族向け「就労B通信」の発行やブログ掲載（年5回）等により家族向け情報発信を行った。 ○新たに支援学校向けおよび利用希望者向けの利用案内資料を作成した。 ○専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、臨床発達心理士1回/月、嘱託医1回/月）を受けながら、障害特性に応じた支援の改善や職員の資質向上を図った。
3	多様な働く機会や社会生活に必要な経験の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○10月、箕面市障害者事業団の職員採用試験に利用者3名が応募した。事前に面接や通勤等の練習を実施して試験に臨み、利用者1名が採用となった。（就労継続支援B型事業となって初めての就職者となった） ○箕面市障害者事業団での体験実習を実施し、花壇管理、植物リースに1名が延べ10日間（前年度4名・延べ33日間）参加した。 ○新たな作業種として5月よりアルミチューブのリサイクル作業を行った（年度末には生活介護の利用者作業に移行）。
4	製袋事業の安定運営	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の「箕面市指定ごみ袋」仕様変更に伴って変更となった作業も各利用者の習熟度が増し、徐々に作業効率が上がってきた。 ○製袋事業の課題改善に向けて、箕面市と継続的な協議を行うとともに、製造シェア事業所との生産量調整などを行い、計画的な生産を行った。 ○安定供給と費用逓減を図るため、令和3年度は製品等の仕入のための入札を年2回に分けて実施した（例年は年1回）。
5	虐待防止・サービス向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより次回のセルフチェックでの改善につなげた。 ○12月～1月に法人全体で開催した人権研修に5名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な支援などについて考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハット内容を分析し、9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに職員間で共有した。 ○市内の医療機関と連携し、所内での健康診断、歯科検診を新たに実施した。
6	感染症対応の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○8月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。 ○利用者の感染防止を図るため、マスクの着用支援や作業環境の見直しなどを行った。
7	利用率向上・収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○新規利用者は1名であった。移行による途中退所者は2名のうち1名は箕面市障害者事業団への就職であった。 ○コロナ禍のため利用者3名が年間20日以上自主休所した。その結果、平均利用率は84.6%（前年度比8.9pt減）となった。 ○訓練給付費収入は961万円（前年度1,214万円）、収支差（就労支援事業を除く）は▲65万円（前年度46万円）であった。

(3) 今後について

- 引き続き製袋事業の安定的な運営に向けて、収支改善の取り組み、安定供給に向けたシェア事業所との調整を図っていく。また、配送拠点の箕面市し尿中継所倉庫が使えなくなったことへの対応として、クリーンセンターの有効活用など配送効率の改善策を検討・実施していく。
- 定員割れしている利用者の確保に向けて、相談支援事業者との連携強化を図っていく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	令和2年度	令和3年度
箕面市指定ごみ袋の生産	92,998,505円	82,810,797円
館内清掃	100,000円	100,000円
計	93,098,505円	82,910,797円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃額（特別工賃を含んで換算）

	令和2年度	令和3年度	前年度比
就労継続支援B型	10,117円	10,058円	99.4%

②施設外支援

実習先	参加人数（実数）	参加延べ日数	職 種
箕面市障害者事業団	1名	10日	緑化部門（花壇管理等）

③その他の活動

- 健康活動（ラジオ体操、ウォーキング、ダンス等）
- 創作活動（ペーパークラフト、手芸等）
- 社会活動（地域清掃等）

(5) 在籍者状況（令和4年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
令和3年度	7名	32.1歳	10.9年	84.6%	5.4名
令和2年度	8名	30.1歳	12.1年	93.5%	7.4名

令和3年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	0名	4名	3名	0名	0名

(1) 概要

- コロナ禍による施設内活動の豊富化のため、施設内のWi-Fi環境を整え、部屋でYoutube等も使った活動に取り組んだ。
- コロナ禍でチーム別懇談会は中止としたが、チーム別機関紙の発行、ブログ掲載（年57回）、ZOOMを用いた個別懇談等により家族向け情報発信・共有を行った。
- コロナ禍のため、利用者7名が年間20日以上自主休所し平均利用率は88.4%（前年度比1.7ポイント減）であった。また、利用者の移行や感染拡大による施設休所等もあり、介護給付費収入は前年度比▲1,426万円、収支差は▲1,303万円であった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	コロナ禍での支援の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○活動場所を整理し、活動の性質や部屋の大きさ、参加利用者の障害特性等に配慮して活動を提供した。 ○感染防止のため、利用者がマスク着用等できるよう支援に努め、マスク着用が難しい利用者には距離を取るなどの代替手段の検討・実施を行った。 ○Wi-Fi環境を整え、各部屋でYoutube等を使った活動の充実を図った。
2	外部評価（指定管理アンケート・第三者評価）をふまえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の業務の流れに沿って、業務マニュアルの整備を行った。 ○チーム別懇談会は前年度に引き続き中止としたが、年4回の法人広報誌の配布、チーム別機関紙の発行、ブログ掲載（年57回）、ZOOMを用いた個別懇談等により家族向け情報発信・共有を行った。 ○新たに支援学校向けおよび利用希望者向けの利用案内資料を作成した。 ○専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、臨床発達心理士1回/月、嘱託医1回/月）を受けながら、障害特性に応じた支援の改善や職員の資質向上を図った。
3	介護技術の標準化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の業務の流れに沿って、業務マニュアルの整備を行った。 ○「利用者支援概要シート」（個別支援計画に基づく支援の要点など）や個別利用者の支援マニュアルの作成・更新を行うとともに、利用者の状況変化や支援の変更を職員間で共有した。
4	虐待防止・サービス向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより次のセルフチェックでの改善につなげた。 ○12月～1月に法人全体で開催した人権研修に31名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な支援などについて考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハット内容を分析し、9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに職員間で共有した。 ○市内の医療機関と連携し、所内での健康診断、歯科検診を新たに実施した。
5	感染症対応の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○8月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。 ○利用者の感染防止を図るため、マスクの着用支援や作業環境の見直しなどを行った。
6	医療的ケアへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ○看護師を中心に医療的ケアの実施について情報共有を行うとともに、安全な医療的ケアが提供できる体制や環境づくりに努めた。 ○安全委員会を年4回開催した。 ○喀痰吸引研修を職員3名が受講し、利用者1名・延べ2行為の医療的ケアが新たにできるようになった（喀痰吸引等が実施できる生活支援員は計10名）。
7	利用率向上・収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○新規利用者は1名で、移行による途中退所者が2名であった。 ○コロナ禍のため利用者7名が年間20日以上自主休所した。その結果、平均利用率は88.4%（前年度比1.7ポイント減）となった。 ○介護給付費収入は1億8,706万円（前年度2億132万円）、収支差（就労支援事業を除く）は▲1,303万円（前年度668万円）であった。

(3) 今後について

- コロナ禍での敷地内・敷地外活動、支援のあり方を引き続き検討・実施していく。
- 支援学校2年生からの実習受け入れを行うなど、新規利用者の確保に向けた対応を検討・実施していく。
- コロナ禍でも家族との情報共有が図っていけるよう、引き続き機関紙やブログ、Zoomを活用した情報発信などに取り組んでいく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	令和2年度	令和3年度
箕面市指定ごみ袋の生産	1,440,000円	1,440,000円
農園芸	398,731円	398,205円
さをり製品の生産・販売	38,840円	34,544円
指編み製品の生産・販売	4,000円	1,000円
ペットボトル、アルミ缶リサイクル等	82,346円	126,180円
館内清掃	400,000円	400,000円
計	2,363,917円	2,399,929円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃

令和2年度	令和3年度	対前年度比
563円	1,367円	242.8%

②その他の活動

- 健康活動（機能維持訓練、ダンス、ストレッチ、ウォーキング等）
- 日常生活・社会適応訓練（外出を伴うものは実施なし）
- 創作活動（書道、手芸、季節の壁面飾り等）
- 文化活動（音楽療法、音楽活動、音楽・DVD鑑賞、紙芝居等）

(5) 在籍者状況（令和4年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
令和3年度	65名	32.2歳	13.5年	88.4%	57.8名
令和2年度	66名	31.1歳	12.4年	90.1%	61.4名

令和3年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	36名	20名	9名	0名	0名	0名